

No.001 ひと尋の会 ロールモデル —イクメン—

氏名：杉本篤言（すぎもとあつのり）

所属：地域精神医療学寄附講座

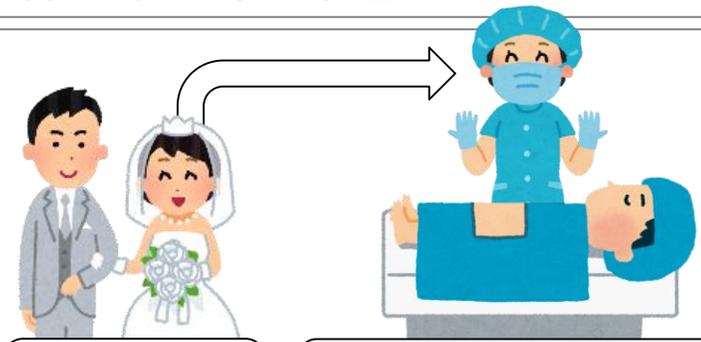
マイルストーン（経歴）

平成17年 医学部卒業, 大学病院で研修医スタート。
平成18年 たすき掛けでは佐渡病院を選択。
平成19年 大学病院精神科シニアレジデント。

平成21年 新潟県立精神医療センター精神科医師。
平成22年 あいち小児保健医療総合センター診療科レジデント。

平成23年 大学院生に。
平成26年 精神医療センター児童病棟長(社会人大学院生)。
平成27年 博士号取得, 地域精神医療学寄附講座特任助教
兼 精神医療センター児童病棟長。
平成30年 同講座特任講師(現職)。

平成31年, 児童精神科外来服薬指導の
取り組みを「月刊薬事」にて特集される。

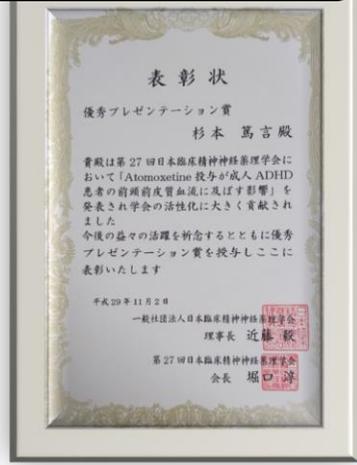


平成20年,
28歳で結婚。

妻は小児心臓血管外科医
(学生時代バスケット部の同期)。

平成29年, 第27回日本臨床精神神経薬理学会
優秀プレゼンテーション賞受賞。

平成29年, 息子誕生。



次の4つの質問にお答えください

1. 医師を目指したきっかけを教えてください

「人」や「心」に興味があったので人に関わる職に就きたいと思ってはいましたが、自分のようなADHD特性の強い人間には人様の命を預かるような責任重大な職業は不向きだと思っていました。

しかし高校3年時に周囲(東京の私立の中堅校)が単に成績がいいから、親が医者だからなどの理由で医学部を志望するのを見ていて、自分がやった方がマシだなと思い医師になることを決意しました。

2. ご自身のモットーは何ですか

仕事であれ何であれ、楽しんでやってやろうと思っています。

3. 医学部生へのメッセージ

進む科を考えるときは「好きなこと」かつ「才能があること」をやるのが一番良いです。好きだから練習する、才能と修練があれば上達する、上達するとますます面白くなる、という好循環が生まれます。2番目はどちらか一方が欠けている場合。両方満たさない場合は最悪です。学生時代に、バスケット部と軽音部を兼部していた経験(両方好きだがバスケットは才能がなかった)から、強くこれを感じています。

4. 自由記載

4歳下の妹と11歳下の弟がおり、父は海外出張が多く母も大学で心理学の教授(当時はまだ准教授)をしていましたので、高校生時には一通り家事育児のスキルが身につけていました。男性に家事育児のスキルがあれば忙しい科の女医さんと結婚してもやっていけます。私は「自分のサポートをしてくれる人」よりも、「対等に語り合える人」と結婚したいと思い今の妻と結婚しました。

平均的な1日の流れを教えてください



6:45 起床、身支度

7:00 朝食準備

7:15 朝食、子どもの登園準備*

7:50 子ども登園*、出勤

8:00 メール・雑務などの処理

9:00 外来

14:00 昼食

14:30 書類、雑務

15:30 研究

18:30 帰宅、夕食準備

19:00 子どもお迎え*、夕食

20:00 子どもを風呂に入れる*、洗濯*、掃除*

22:30 子どもを寝かす*、研究、休憩

24:00 就寝



杉本篤言先生



*...これらの家事は妻と5:5～4:6で分担。食事は私が作ります。